

2017年度

自己点検・評価報告書

— 各 部 署 の 活 動 状 況 —

山 口 学 芸 大 学

自己点検・評価委員会

自己点検・評価実施委員会

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 新たなキャンパス環境で、これまで通り学生と教員とが近く接する関係が維持でき、合理的に授業を展開できるよう配慮し対応する。
- ② ポリシーを再検討し、ナンバリングを検討する。
- ③ 中等教育専攻の授業環境を、より充実するよう検討する。
- ④ 専攻制、コース制が順調に展開できるよう留意し、課題が生じた場合は検討し対応する。
- ⑤ 再課程認定にむけて、コアカリキュラムの発表以前、発表後と継続して対応する。
- ⑥ 認証評価への準備を間断なく行う。
- ⑦ 大学院の入学者数を多くするための模索をする。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	教員と学生が近く接することのできる環境維持及び合理的な授業展開への配慮	研究室が、I棟から新校舎のA棟2階に移動し、ゼミ室、連絡掲示板等もそのフロアにあるため、教員と学生の距離は一段と近づき、授業教室への移動もスムーズに行われるようになり、合理的な授業の展開が可能となった。	4
②	ポリシー及びナンバリングの検討	文章で表現していたポリシーを、箇条書きで高校生にもわかりやすい表現に直して表記し、学生ハンドブック、ホームページに記載した。また、大学独自の方式でシラバスにナンバリングの記号を表記した。	4
③	中等教育専攻の授業環境の充実	英語関係授業の教室に近い位置に、英語を中心とした中等教育専攻の教員の研究室を集中させ、日常的に専攻の学生たちとより身近に接することのできる環境が整えられた。これから学年が上がり、授業数が増えてきた場合の英語に特化した専用教室の整備についてはいまだし時間が必要である。	3
④	専攻制及びコース制の順調な展開を図るための対応検討	専攻制をとったことにより、思わぬ事態が生じることもあったが、教職員の連携を取りながら対応している。	3
⑤	再課程認定に向けた対応	再課程認定に向けては、教職課程委員会、学生部教務を中心に検討、準備し、カリキュラムに基づくシラバスの作成や業績調書の収集につとめ、申請に遺漏のないよう、進めている。	4
⑥	認証評価への準備	認証評価の対応を含め、さまざまな規程、内規を検討しながら、例年通り大学独自の自己点検評価を行い、エビデンスの確保、収集に努めている。	3
⑦	大学院の入学者数増に向けた対応	就職内定者増のため、優秀な学生の進学希望者は依然として少ない。本学内への進学・編入を推奨するための一つの方策として、予約制特別奨学金の制度を整備した。	3

	根拠資料の名称
①	学生ハンドブック（キャンパス案内図）
②	カリキュラム等検討委員会議事録、学生ハンドブック、ホームページ、平成29年度版シラバス
③	学生ハンドブック（キャンパス案内図）
④	
⑤	教職課程委員会議事録・資料
⑥	自己点検評価委員会議事録・資料
⑦	IR委員会議事録・運営委員会議事録・教授会議事録

3 来年度の取組事項

- ① 12月の本学を会場とする中・四国保育学生研究大会成功に向けての取組みを行う。
- ② 社会のニーズに対応した、より質の高い教育者・保育者の養成に向けて、カリキュラム・ポリシー及び教育課程を再検討する。
- ③ 中等教育専攻の学生確保のための方策を検討する。
- ④ 中等教育専攻の授業環境を、より充実するための更なる検討する。
- ⑤ 専攻制、コース制が順調に展開できるよう留意し、課題が生じた場合は検討し対応する。
- ⑥ 再課程認定の新教育課程に準じた授業を実施するため、担当者等の確認と準備を行う。
- ⑦ 認証評価受審に向けて、自己点検評価報告書の作成と提出を行い、実地調査に対応する。
- ⑧ 大学院の入学者数を多くするための方策を引き続き検討する。

学生部

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 更なる組織の機能性を発揮させるため事務組織の再編を実施する。
- ② 事務組織を充実するため、事務職員を採用する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	事務組織の再編	事務機能の効率化を図るため、入試広報課を学生部から事務部に配置換えし、事務部を2課体制とした。	4
②	事務組織の充実	事務部の学長企画室に担当職員を採用し、機能強化を図った。	4
③	学生食堂の新規業者の選定	学生食堂の事業者が前期で撤退したことに伴い、後継業者を選定し後期から営業を開始した。	4

	根拠資料の名称
①	山口学芸大学山口芸術短期大学事務組織規則の一部改正について
②	採用手続き決裁文書
③	後継業者との契約書等

3 来年度の取組事項

- ① 学生部内の配置換えにより機能強化を図る。
- ② 学生の福利厚生施設として売店の設置を検討する。
- ③ 修学支援システムの導入を検討する。

学生部

▷教務課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 教職委員会と教務委員会規程内容の整理を行う。
- ② FD・SD委員会との連携を図る。
- ③ 学習成果の根拠資料を整える。
- ④ 成績評価とGPA評価を考える。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	委員会規程の整備	教職課程委員会、教務委員会規程について整理した。このことにより、このたびの再課程認定の課題について協議を重ね、共通理解に努められた。実務に追われるのが現状で、教務委員会規程の整理が遅れた。委員会規程の個々の業務については、滞りなく実施できている。	4
②	FD・SD委員会との連携	授業アンケート実施と、その後の授業改善報告書については、前向きな意見もあるが、そのフィードバックについて、FD委員会との連携ができなかった。	2
③	学習成果の根拠資料の整理	各学科独自での取り組みは、あるものの、教務課としての全体把握に至らなかった。	2
④	成績評価とGPA評価の検討	GPA制度の規程の整理をし、学生ハンドブックでの周知を図ることとした。	4

	根拠資料の名称
①	教職委員会規程、教務委員会規程
②	授業アンケート、授業アンケート後の授業改善に対するコメント
③	各学科の修学支援記録、ポートフォリオ等
④	学生ハンドブック、成績評価基準、GPA制度検討資料、GPA制度運用規程

3 来年度の取組事項

- ① 再課程認定に向けて、適切に対応する。
- ② 保育士養成課程見直しに係る教育課程の充実に向けて学部学科との連携を図る。
- ③ 教職課程における領域に関する専門的事項見直しに向けた検討に着手する。
- ④ FD・SD委員会との連携を強化する。

学生部

▷学生課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 施設を含めた障害を持った学生の支援を充実させる。
- ② 駐車場を含む交通安全指導を行う。
- ③ 計画的な健康衛生支援を行う。
- ④ 学生自治会活動の規約等を整備する。
- ⑤ ハラスメント関係の予防と対策及び規約を充実させる。
- ⑥ 海外留学・渡航等に関する対応を充実させる。
- ⑦ 地域や他の大学との連携に努める。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	障がいのある学生への支援体制の充実	聴覚障害者に対しての筆談対応の「耳マーク」設置等を行い学内組織も構築しつつある。	3
②	交通安全指導の徹底	警備員の配置、車通学オリエンテーション(年2回)、交通安全講習会の開催、教職員の立哨等(年2回)を行った。事故報告件数は8件(昨年度11件)であった。	4
③	健康衛生支援	学生及び教職員の健康診断や日々の対応等をさらに充実させた。また「対応マニュアル」「保健室だより」の作成によりインフルエンザ等の対応に効果があった。	4
④	学生自治会活動の規約整備	開学以来大幅な変更もなく現実と離れていた規約に着手し、会計のマニュアル等の整備を進めている。	3
⑤	ハラスメントの予防と対策	ハラスメントの多様化に対応するため、規則等の改正を行った。また、オリエンテーションにおいて、学生に資料を配布し、ハラスメントに関する注意喚起をおこなっている。	4
⑥	海外留学・渡航等への対応の充実	海外渡航届の作成・提出を求めたことにより、学生の把握が可能となった。これから留学希望者等が増加することが見込まれるため、規約等の整備を検討している。	4
⑦	地域や他大学との連携強化	大学間では組織として「大学リーグ山口」「山口エコキャンパス」に参加・協力、また「県内大学高専学生支援連絡会」等に参加し、学生支援体制の整備について情報交換を行った。	4

	根拠資料の名称
①	「耳マーク」設置・事務部学生部カウンター/起案書
②	講習会資料、車通学の心得
③	救急・応急処置対応マニュアル、健康診断票、保健室だより、起案書
④	学生自治会会計報告、ピアリーダーズセミナー資料
⑤	学生ハンドブック2017の7 山口学芸大学・山口芸術短期大学ハラスメントの防止等に関する規則
⑥	海外渡航記録
⑦	各会議資料

3 来年度の取組事項

- ① 障害のある学生の支援を充実させる。
 - ② 学生自治会活動の規約等を整備する。
 - ③ 海外留学・渡航等に関する対応を充実させる。
 - ④ 地域や他の大学との連携に努める。
-

学生部

▷連携推進課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 平成29年度の取組みがそのまま第三者評価に反映されることから、3月までに評価項目を確認し、それに合わせて本学の活動を整理するとともに、一応の報告書を作成する。
- ② 平成30年度の事業計画策定に向けた平成29年度自己点検・評価が円滑に行えるよう努力する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	平成30年度機関別認証評価（日本高等教育評価機構）に向けた取組み	日本高等教育評価機構認証評価の受審に向けて、執筆担当者を決定し、委員会を設置した。自己点検評価書（案）の作成に向け、学内調整を進めた。	3
②	平成30年度の事業計画策定に向けた平成29年度自己点検・評価が円滑に行えるよう努力する。	来年度の事業計画策定の資料とするため、1月22日を自己点検評価報告書の第1次締切とし、全体の取り纏めを実施した。年度末までに変更があったものについては、再度提出を求め、最終版を作成した。	4
③	包括連携協定に向けた取組みを行う。	山口市（2017.9.27）と包括連携協定を締結し、連携に向けた取組みの協議を開始した。	4

	根拠資料の名称
①	受審のてびき
②	自己点検・評価委員会議事録 自己点検・評価実施委員会議事録
③	起案書、包括連携に関する協定書

3 来年度の取組事項

- ① 2018年度の機関別認証評価（日本高等教育機構）に向けて、報告書を完成させ、10月の实地調査に向けて準備を進める。
- ② 連携推進課の業務を整理し、事務作業の簡略化を図る。

教育・保育支援センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 外部からの相談、講師派遣依頼への対応を行う。
- ② 夏期講座を実施する。
- ③ 夏期講座の参加者数を増加する対策について検討する。
- ④ 教育・保育支援センターのパンフレットを作成し、県内教育・保育関係機関へ送付する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	外部からの相談、講師派遣依頼への対応	講師派遣依頼が8件あり、8名の教員が対応した。	4
②	夏期講座の実施	現職の教育者・保育者を対象とした「第28回夏期講座」を8月5日（土）に開催し、全体講演及び各講座合延べ96名の参加があった。	4
③	教育・保育支援センターのパンフレット作成と県内教育・保育関係機関への送付	地域に根ざす大学の社会的役割を果たすため、これまでのパンフレットの内容を見直し、県内の小学校・幼稚園・保育所をはじめとする教育機関に、最新の情報を提供した。	4

	根拠資料の名称
①	講師派遣依頼記録簿
②	パンフレット名「山口学芸大学・山口芸術短期大学 教育・保育支援センター」
③	パンフレット名「山口学芸大学・山口芸術短期大学 教育・保育支援センター 第28回夏期講座」
④	行事・計画伺「教育・保育支援センター主催 第28回夏期講座の開催」

3 来年度の取組事項

- ① 学外からの相談・講師依頼に対応する。
- ② 学内での相談受け入れの可能性について検討する。
- ③ 夏期講座の実施時期や内容を見直す。
- ④ 山口県健康福祉部子ども・子育て応援局からの、キャリアアップ講習会依頼について検討し、部分的にでも協力していく。

進路支援センター

▷教職支援室

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 教員採用試験の現役合格者を今年度も50%以上とする。
- ② 教師力向上プログラムの受講者を10名程度確保する。
- ③ 学校体験制度及び他のボランティア活動を活用して教師への情熱とその資質向上に努める。
- ④ 山口大学の教職大学院教育実践開発コースへの対応を検討する。
- ⑤ 2020年度から実施される新学習指導要領への対応・取組を行う。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	教員採用試験の現役合格率50%維持するための対応	小論文、模擬授業の取組みを充実させた。4年生は46名受験し、1次試験合格者は40名であった。2次試験は40名のうち、35名が合格した。(数字は全て実数)	4
②	教師力向上プログラムの受講者確保	毎年20名を推薦し合格させているが、今年度は特別支援教育免許の授業の関係もあり、希望者が少なかった。今年度は19名推薦し、10名が合格した。	4
③	学校体験制度及び他のボランティア活動の活用	学校体験制度への参加者は38名であった。その他のボランティア活動にも参加させ、教師への情熱とその資質向上に努めた。	4
④	山口大学の教職大学院教育実践開発コースへの対応	本学大学院については、予約制特別奨学金制度をつくるなど、学生募集に向けた取組を実施しており、1名の採択が決まったが、結果的には、山口大学教職大学院へ進学することとなった。	3
⑤	2020年度から実施される新学習指導要領への対応・取組み	教職演習及び東京アカデミー学内講座における新学習指導要領の講義等で対応している。	3

	根拠資料の名称
①	教職支援計画一覧表 可否実績一覧表
②	教師力向上プログラム応募等一覧表
③	学校体験制度参加一覧表等 採用前インターンシップ一覧表等
④	運営委員会資料(予約制特別奨学金)
⑤	教育答申資料集(東京アカデミー編) 教員採用試験参考書【教育原理 教育史】(東京アカデミー編)

3 来年度の取組事項

- ① 教員採用試験の現役合格率を今年度も50%以上とする。
 - ② 教師力向上プログラムの受講者を10名程度確保する。
 - ③ 学校体験制度及び他のボランティア活動を活用して教師への情熱とその資質向上に努める。
 - ④ 2020年度から実施される新学習指導要領への対応・取組を行う。
-

進路支援センター

▷保育職支援室

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 公立保育職希望者に対して、弱点克服などの指導を行うため、個人面談に力を入れる。
- ② 私立保育職希望者に対して就職指導や学習に主体的に取り組むよう働きかける。
- ③ 希望する事業所に応じた面接指導を強化する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	個人面談指導の充実	各自治体の試験傾向を探りながら、学生それぞれの弱点克服ができるよう、模試ごとの結果を参考に、面談を行った。その結果、公立保育職に5人（延べ7人）が合格した。	4
②	私立保育職希望者に対する就職指導や学習への動機づけ	自信を持って保育現場に出向いたり、受験に臨めるよう履歴書や自己アピールの書き方について指導を強化した。その結果、私立保育職希望者は100%年内に採用が決定した。	4
③	希望する事業所に応じた面接指導の強化	各事業所の試験に向けて、それぞれの受験する市や私立園に合わせた面接指導を、過去の出題を参考に指導した。保育職希望者全員が就職できた。	4

	根拠資料の名称
①	模試結果、模擬テスト資料
②	幼稚園・保育園の情報一覧、履歴書、自己アピールの指導資料
③	面接指導状況、公立、私立面接過去問題資料

3 来年度の取組事項

- ① 保育職希望者の一般教養を高めるために、従来の模試に加え、分野ごとの問題等を勉強する機会を設ける。
- ② 主体的な就職活動を展開するため、自己理解を深める取組みとして、学習レポートを書かせる。
- ③ 就職活動を効率的に進められるよう、学生の希望する事業所に応じた個別指導を充実させる。

進路支援センター

▷就職支援室

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 企業との連携強化月間を設定し、新卒者の激励と雇用主側の要望を聞くことを目的に就職先企業を訪問する。
- ② 1年生対象のマナー講座を実施する。
- ③ 「就職ガイド」の見直しを図り、活用を促進する。
- ④ 卒業生対象の就職支援に係る相談体制を整備する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	新卒者の就職先企業訪問	6月を企業との連携強化月間として新卒者の就職先企業をすべて訪問し、卒業生を激励するとともに企業側の要望を聴き取った。併せて企業対象のアンケートも実施した。	4
②	1年生対象マナー講座の実施	1年生全員を対象のマナー講座を実施し、教職志望者にも社会人として必要なマナーの修得を図った。	4
③	「就職ガイド」の見直し及び活用の促進	「就職ガイドブック」の見直しを行い、学生の実態を踏まえた本学独自のガイドブックを作成して、全学生に配付した。	3
④	卒業生対象の就労支援に係る相談体制の整備	相談内容の秘密保持ができる相談室を開設し、相談体制を整備した。ガイドブックにも卒業後の相談を記載し、利用を働きかけた。	4

	根拠資料の名称
①	新卒者就職企業面談記録、企業アンケート集計
②	1年生対象マナー講座実施要項およびアンケート集計
③	2017就職ガイドブック
④	各年度就職相談カード

3 来年度の取組事項

- ① 進路支援センターや学生就職支援委員会の組織や業務を見直し、キャリア支援体制を充実させる。
- ② 学生にとって就職活動の満足度が高まる支援を行い、就職率100%を達成する。
- ③ 「就職ガイド」を学生の実態に応じた使いやすいものに改訂し、活用の促進を図る。
- ④ 一般就職希望者のインターンシップを充実させる。

学術情報センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 図書館と情報教育センターを束ねる機関として学術情報センターを設置する。
- ② 上位機関としての学術情報センター規則を整備する。
- ③ 図書館及び情報教育センターの活動支援を行う。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	学術情報センターの設置	独立に活動していた図書館と情報教育支援センターの連携協力を図るため、両者を束ねる学術情報センターを新たに設置し、共同開催の会議体を整備した。	4
②	学術情報センター規則の整備	図書館と情報教育支援センターの上位機関として、学術情報センター規則の整備を検討し、準備を進めている。	2
③	図書館及び情報教育支援センターの活動支援	図書館委員会メンバー及び情報教育支援センターの活動を支援するための連絡調整機能とし、学術情報センター運営委員会を必要に応じて開催した。	4

	根拠資料の名称
①	学術情報センターの設置を確認できる運営委員会資料（学則等）
②	学術情報センター規則（整備途中）
③	学術情報センター運営委員会議事メモ

3 来年度の取組事項

- ① 学術情報センター規則及び学術情報センター運営委員会規則を整備する。
- ② 学術情報センター運営委員会を定期的（2ヶ月に一度程度）に開催する。
- ③ 情報基盤整備に関する計画・指針を決定する（ネットワーク速度、同時接続数、Windows10への移行等）。
- ④ 修学支援システム（教務、学生、入試等）の整備計画を策定し実施する。
- ⑤ 新図書館への移転を支援（予算面、人事面）する。

学術情報センター

▷図書館

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進：
アクティブ・ラーニングコーナーやグループ学習室等の効果的な活用方法の検討を行う。
- ② 新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進：
図書館検索OPACを周知する。
- ③ 他の図書館等との連携を推進する。
- ④ 山口県立山口博物館におけるML連携展示へ参加する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	新図書館活用の活性化に向けた基盤づくりの推進	アクティブ・ラーニングコーナーやグループ学習室等の効果的な活用方法を検討して、利用並びに館内での飲食に係る申合せ事項を作成した。	4
②		図書館システムのバージョンアップにより、OPACの操作性を向上させた。それに伴い、学生がより理解しやすい利用方法を検討し、学生掲示板等により周知した。	3
③	他の図書館等との連携	山口市立山口中央図書館と相互返却利用を開始し、1年間の利用冊数は、255冊（H30.3.31日現在）であった。	3
④	山口県立山口博物館におけるML連携展示への出展参加	保育学科・幼児教育コースと芸術表現学科の学生による共同制作絵本、学芸大学卒業生による創作絵本、これまでの定期演奏会のポスターや組曲「吉田松陰」の楽譜等を展示し、芸術とともに歩んできた本学の歴史を紹介した。	4

	根拠資料の名称
①	学生ハンドブック掲載用草案
②	『図書館の検索方法』・各学科掲示板、図書館内掲示
③	平成29年度月毎相互返却回数表
④	ML連携パンフレット「やまぐちの大学」

3 来年度の取組事項

- ① 新図書館の移転に向けた基盤づくりを推進する。
- ② ML連携展示による図書館活用への動機付けを行う。
- ③ 学生の図書館活用の活性化を図る。
- ④ 山口市立山口中央図書館等との連携を推進する。

学術情報センター

▷情報教育支援センター

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① サイバーセキュリティの確保に向けた取組みを継続して実施する。
- ② アクティブ・ラーニングへのICT等を活用した授業の活性化に向け関係委員会との連携を図る。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	サイバーセキュリティ確保にむけての情報共有	他の教育機関等で発生した情報セキュリティに関わる事故を周知し、本学の情報セキュリティ事故の未然防止を図った。	4
②	教員に対するアンケートの実施	常勤教員に対し、アクティブ・ラーニングを目指した教育・研究における情報機器端末使用に関するアンケートを実施し、その結果を分析した。	3
③	情報端末機器の整備	アクティブ・ラーニングへの対応として英会話学習ソフトを備えたパソコンの整備を行った。また、プリンタ、コピー機を設置し、利便性の向上を図った。	3
④	FD・SD委員会との連携強化	2月実施の本学FD・SD研修会においてアクティブ・ラーニングへ向けたICT機器活用について話題提供を行った。	3

	根拠資料の名称
①	電子掲示板（サイボウズ） 掲示内容
②	アンケート結果概要
③	FD・SD研修会資料（2018.2.27.実施）

3 来年度の取組事項

- ① サイバーセキュリティ確保の取組みを継続して実施する。
- ② アクティブ・ラーニングへ向けた情報教育支援のための設置機器の効果的な活用方法を検討し、関係委員会との連携を図る。

事務部

▷事務課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 5月まで予定されている第3期工事残工事（外溝部分）の円滑な取組みを行う。
- ② 平成29年度に予定されている第4期工事（図書館移設工事）に向けた取組みを強化する。
- ③ より円滑な教育活動に向けて29年度の設備充実計画を立てる。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	第3期工事残工事（外溝部分）の円滑な取組み	工事業者・設計管理業者及び学内との連携を強化し、工程どおり外溝工事を完了した。また追加の中庭改修工事についても予定どおり完成した。	4
②	平成29年度実施予定の第4期工事（図書館移設工事）に向けた取組み	図書館運営委員会及び各部署との連携を強化し、実施設計を終えて入札を実施した。しかし、業者の諸事情により入札不調となり、執行を見送り、次年度に延期した。	3
③	平成29年度の設備充実計画について	各部署からの意見集約後、副学長を中心とした学生部・事務部の検討メンバーが計画内容の精査を行った上で適切に執行した。	3

	根拠資料の名称
①	3期工事竣工図面
②	図書館改修工事図面
③	設備充実計画資料

3 来年度の取組事項

- ① 平成30年度に予定されている第4期工事（図書館移設・改修工事）に向けた取組みを強化する。
- ② 図書館工事等を踏まえてより充実した教育活動に向けた30年度の設備充実計画を立てる。
- ③ 学内施設の光熱水費削減に向けた取組を強化する。（節電・節水の取組）
- ④ 経理業務に関する改善を行う。

事務部

▷入試広報課

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① 接触者データベースの運用開始：
大学・短大共に接触者のデータを一元管理し、戦略的な募集活動を行う。また、接触者情報と高校訪問情報を連動させることで、外回りの活動を効率化する。
- ② 広報ツール・媒体の改良：
「山口学芸大学案内」の全面改訂とセールスポイントを明確にした広報を展開する。
- ③ オープンキャンパスの見直し：
新校舎の完成を受けて、プログラムおよび実施方法の見直しを学科と共に行う。また、オープンキャンパス来場者の出願率を上げる工夫を多角的に検討、実施する。（データベースの活用等）
- ④ インターネット出願の検討：
全国の私立大学の約55%がネット出願に移行している現状を踏まえ、本学でも実施に向け検討を始める。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	接触者データベースの運用開始	『アクセスオンラインシステム』の運用を開始したことで、これまで分散していた接触者データを一元管理することが可能となった。これにより資料発送の時間短縮、接触者履歴の見える化、高校訪問時の情報把握と提供等が格段に効率化された。	4
②	広報ツールや各種媒体の改良	大学案内の制作については学科主導から入試広報課主導に変更し、コンテンツの見直し・補強、紙質、重量の変更を含む全面改訂を行った。	3
③	オープンキャンパスの見直し	新校舎の完成とI棟の使用制限を受け、短大との同日開催にトラブルが発生しないよう食材ルートの確保や教室の割り振り等に工夫をした。また、各回毎に行ったアンケートの集計結果を参考に、可能な限り来場者のリクエストに応えるようなプログラムの実施を学科に依頼した。来場者数については、延べ数で約24%、実数で約30%の増加となった。また、現時点で終了している2018年度の推薦入試におけるオープンキャンパス参加者の出願率も約5%アップした。	4
④	インターネット出願の検討	ネット出願への移行については、全国及び近隣大学の状況から避けられない時期にあるため、代表的なシステムを有する3社に声がけをし、システムの比較検討を行った。その後、学内の複数の委員会で検討をし、2019年度入試からの導入に向け本格的に準備を始めることとなった。	3

	根拠資料の名称
①	アクセスオンライン上で閲覧できるデータベース、高校訪問スケジュール等
②	山口学芸大学案内2018
③	オープンキャンパスプログラム、アンケート集計結果、総括表等
④	ネット出願資料一式、見積書等

3 来年度の取組事項

- ① インターネット出願の導入：
2019年度入試からトラブルなくネット出願に移行できるよう、学内の作業（システムの設計、データの移行、説明書の作成、募集要項の変更等）及び受験生への告知（説明会の実施等）の両面から準備を徹底する。
- ② 情報発信ツールの見直しと改善：
2015年にオフィシャルサイトを全面リニューアルして丸3年が経過。ユーザーの閲覧環境が益々スマホ主流になったことに伴い、サイトの部分的な見直しを行う。同時に、SNSを活用した情報発信を強化する。
- ③ アクセスオンライン（接触者管理システム）の活用：
接触者データを多角的に分析したり、様々な条件でのクロス集計をするなどシステムをさらに活用し、より戦略的な募集活動を行う。
- ④ 大学・短大統合学生スタッフの立ち上げを検討：
現在、大学・短大、さらには学科コース別に活動している学生スタッフを統合した組織を立ち上げ、学生たちを軸としたオープンキャンパスが実施可能か検討を始める。

3 来年度の取組事項

- ① 組織の維持・安定化を図るため、危機管理体制を強化する。
 - ② 各種補助金の獲得に向けた取り組み・調整を行う。
 - ③ I R機能を強化し、データの蓄積を図る。
-

1 本年度の課題(昨年度課題としたこと)

- ① FD研修会を年間3回程度実施する。
- ② SD研修会を年間2回程度実施する。
- ③ 全学的な取組として授業の相互参観を実施する。

2 自己点検・評価

(1) 本年度の取組状況

自己点検評価欄に「4：適切に実行している」「3：概ね実行している」「2：あまり実行していない」「1：実行していない」の4段階で記入してください。

	具体的項目	取組状況	自己評価
①	FD研修会の実施	多くのFD・SD研修会を開催し、教職員の資質能力の向上に役立てることができた。平成29年度実施の研修会は以下のとおりである。 2017. 4. 20及び27 「平成29年度新任者研修」…a 2017. 5. 29 FDSD研修会「教育研究に係る学内研修会」…b 2017. 7. 18 FDSD研修会「芸術表現学科の改革」…c 2017. 8. 3 FDSD研修会「教職課程コアカリキュラムについて」…d	4
②	SD研修会の実施	2017. 8. 9. FDSD研修会「アクティブラーニングにおける諸問題の解決方法を探る」…e 2017. 9. 28. FDSD研修会「経営改善計画等研修会」…f 2017. 10. 19. FDSD研修会「高大接続改革における入試改革 大学に必要な視点とは」…g 2018. 2. 27. FDSD研修会「大学の魅力づくりと授業改善」…h	
③	授業の相互参観の実施	実施を呼びかけ、年度末までに7件の実施報告があった。	3

	根拠資料の名称
①	起案書（a, b, c, d, f, gは学生部・事務部起案、e, hはFDSD委員会起案）
②	
③	授業の相互参観の記録

3 来年度の取組事項

- ① FD研修会を年間3回程度実施する。
- ② 全学的な取組として授業の相互参観を実施する。
- ③ SD研修会を年間2回程度実施する。